



安心してつるおの、下町の川の手をめぐりて

防災 まちづくり 瓦版

発行ノ一言問を防災のまちにする会

1993. 12. 1

三つども通リ 一言問小学校前のデザイン固まる

三つども通りの言問小学校前は、電柱の移設工事も終わり、いよいよ路面などの工事を待つばかりとなりました。

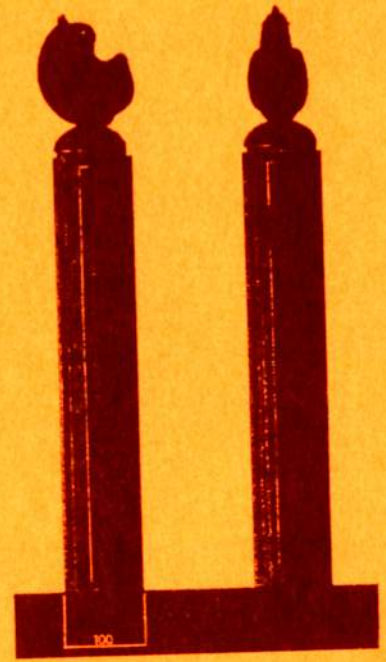
担当理事会ではその後も検討を重ね、道路のデザインについて考えてきました。「歩いて楽しい道に」、「路面にはつぎりした模様を」、「石畳のような舗装に」、「やわらかいイメージに」など、見た目の印象を大切にしたいという思いと「高齢者がつまづいたりしないものに」、「必要がある」とか、「石畳の目地にハイヒールのかかたが刺さってしまうのは困る」といった、歩きやすさを大切にしたいという思いを重ね合わせながら、具体的な絵を描いていきました。

ポラード(車止め)についても、「頭に都鳥を付けたい」けれども「尖った部分が多いと子供が引っ掛かって怪我をしやすくなるのではないか」という考えもあり、工夫が必要でした。

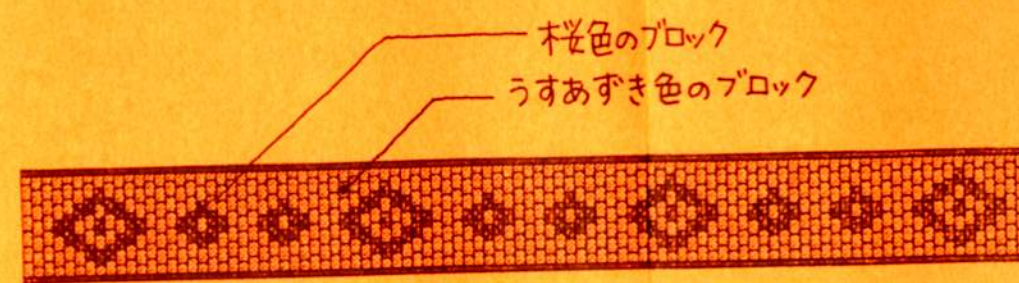
10月12日の担当理事会では大体の意見が出切り、具体的なデザインが固められました。路面はつぎりした色のブロック

を地に、その中に桜色のブロックで模様を描くことにしました。歩きやすさを考えてブロックは目地の小さいものを選びます。ポラード(車止め)は細い暗緑色のものに都鳥をイメージした丸みを持った飾りを付けることにしました。

現在、具体的な設計が進められており、工事は1月頃から始められ、3月いっぱいまでには完成する予定です。明るく楽しい道ができるまでお待ちを願っています。



◀ 都鳥をイメージしたポラード(車止め)デザイン (太さ: 直径100mm, 高さ: 750mm)



木桜色のブロック
うすあずき色のブロック

▲ 路面のデザイン — 同系色ブロックを使って

高田製菓菓跡地

9月8日と10月19日に担当理事会が開かれ、高田製菓跡地に建てる建物の検討をしました。建物については各担当理事それぞれが強い思いを持っているようで、様々な意見が飛び交いました。

そんな中で検討のポイントとなったのは、建物をどんな使い方をするのか、どのように管理するのかといった点でした。

まだ検討中

の2つです。管理は、直接区が行うのではなく、一言会に管理委託するという有季園方式を望む意見が多く、住民主体で活用できる施設となりそうです。



▲ 東京都の鳥にもなっている「都鳥」

私がまちづくりスタッフです

その30
向島五丁目
牧野さえ子さん
(一言会・理事)



生れも育ちも墨田区向島。結婚しても実家を手伝い、三年おきに三人の男の子を生んだ。母親役をしっかりとこなす。子育てを楽しむ余裕がある。七くなられたお父さんは、肉屋さんをやっていた。近所のおばさんからは、今だに「さえ子ちゃん」と呼ばれることが多い。

平成3年、母校である言問小学校のPTA会長になる。三十年ぶりの女性会長である。

「地域と学校のパイプ役になるのなら」と、まちづくりに参加した。三とも通りの担当理事会が動き始めた頃である。

「言問小の改築」という課題を想定して、地域開放型のモデル校、台東区の上野小学校に学校見学にも行った。言問小学校の前の道が、歩きやすい道に整備されることに決って、それ以来、おしゃれな舗道やポラードがあると写真にとってみたりした。

「言問小学校の前ばかりでなく、三とも通り全部が、きれいになるといい。」そう思っている。

牧野さんは、子供と学校のことに関心があり、五年前から「お母さんの勉強会」の代表になっている。母親心理学訓練講座という何やら、むずかしそうな講座を毎月、両国で開いているが、実際は、お母さんが集まって、子育ての話をする楽しい講座だそうだ。

(純)

いちごことい 一寺言問/防災まちづくり瓦版

第32号 平成5年12月1日発行

編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菊枝・植竹モト
阿部羊一・明間 藤・中村淑子

編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局
墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

墨田区主催の第5回都市景観フォーラムが、9月1日(水)に開催されました。「路地」をテーマに今回のフォーラムでは、午前中に、50名あまりの参加者が一寺言問・鐘ヶ淵・京島・両国の4コースに分かれ、それぞれの路地を見学しました。

一寺言問コースは、約13名の参加があり、一言会理事の佐原滋元さん、萩原昭作さん、高原純子さんの案内で約1時間半にわたって地区を見学して歩きました。

一寺言問に住んでいる人でも通り抜けたことのないような路地をみて、参加者はみんなミスティアス(?)な路地空間を満喫していました。

午後からは、区役所の会議室に戻って、路地のまちに住む「うち路地グループ」それ以外の「そと路地グループ」に分かれ、路地対談と題した座談会が行われました。

一言会からは、座談会のパネラーとして、佐原さんが参加し、「路地は社会的な共有スペースであり、無機質な単なる公共のみちとは違うのです。」と路地に住む人ならではの意見を述べられました。



▲座談会会場

一言会、墨田区で「路地対談」都市景観フォーラムに参加

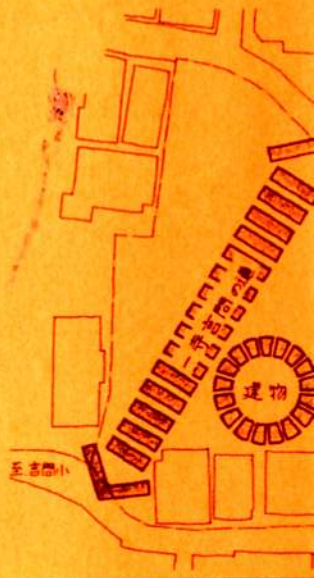


建物の周りに広がる広場との関係なども考えながら、「建物をここに置いて、屋根から取った雨水でここに池をつくらう」とか、「昼間はいつも誰か居て自由に出入りできるようにし、夜は鍵を掛けるようにしよう」などの意見が出されました。

これまで確認されたことは、

①一言会による防災まちづくりの活動拠点として位置づけること

②建物は広場の南側に、南北を結ぶ「一寺言問の道」を避ける形で配置すること(下図参照)



まだまだ検討しなければならぬことがたくさんありますが、一寺言問の一大事業なので慎重に時間をかけて取り組んでいく予定です。

アサヒビール寺島配送センター 返答のないまま 工事が進められる

堤通一丁目一番に計画されたアサヒビール寺島配送センターの建設は、予定通り9月1日に着工し、現在着々と工事が進められています。



▶アサヒビール寺島配送センターの工事風景

前号の瓦版でも紹介しましたが、一言会は、この計画に対して度々要望書を提出してまちづくりへの協力を呼び掛け続けてきました。そして7月14日には、さらなる要望書を提出する予定である旨をアサヒビールに伝え、9月1日付けで要望書を渡しました(実際にはアサヒビールとの接触がなかなかとれず、28日に渡しました)。

その後アサヒビールからは何の連絡もありません。一言会では、もう一度アサヒビールと飛鳥建設を理事会に招いて、現在行われている工事の内容や、要望に対する回答を聞き、一言会の考えを伝える予定です。

